



研究マネジメントに活用するための 分析・評価



静岡大学 研究・情報担当理事兼副学長
中村 高遠



静岡大学の教育研究組織

(研究組織)

電子工学研究所

創造科学技術大学院研究部

(教育研究組織)

工学部、情報学部、農学部、理学部

教育学部、人文学部

(教育組織)

創造科学技術大学院教育部(博士課程)

(専門職大学院)

法務研究科、教職大学院



これまでの評価

$$\begin{aligned} \Sigma \text{個人評価} + (\Sigma \text{研究プロジェクト}) \\ \cong \Sigma \text{個人評価} = \text{組織評価} \end{aligned}$$

受賞・研究助成
査読付き学術雑誌論文
総説・解説・書評
芸術・体育系分野の業績
学会発表
学会開催
国際共同研究
科学研究費補助金
民間等との共同研究・受託研究

著書
その他の論文
辞典・辞書
特許・実用新案・意匠の出願
学会招待発表・講演
学術雑誌の編集，査読
研究成果報道
その他公的資金
奨学寄付金受入数

- ・ **部局の研究活動状況（レベル）は把握できる。**
- ・ **しかし、社会ニーズの変化等の変化に対応した研究戦略に活用には不向き。**



部局マネジメントに活用した評価例

自己分析

工学部で実施（平成16年）

- (1) 教員各自が自己の優れた点，弱い部分を
定量的に把握する
- (2) 簡便な評価方法

○ 法人化直後に直面した課題

- ・ 定員削減の下での空きポストの学科配分
- ・ 学部個性化に向け、研究プロジェクトを
立上げる必要性
- ・ 地域からの期待に応える



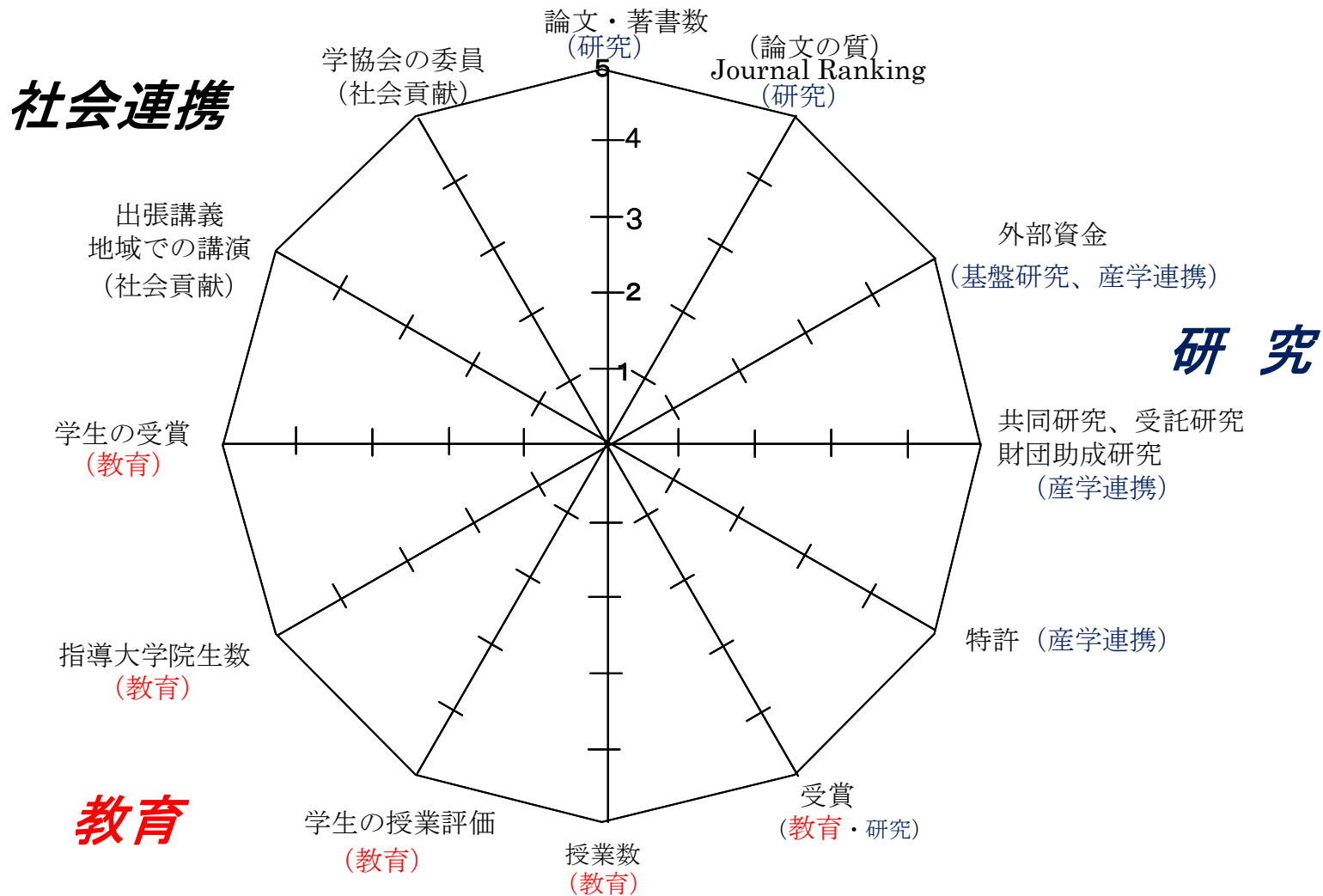


自己分析(評価)の考え方

- (1) 教育, 研究, 社会貢献の3ジャンル, 計12項目について0から5までの数値で定量化
- (2) 研究の質に関しては, Journal Rankingという正規化された指標を採用し、分野の相違によるアンバランス避ける
- (3) これ以外の項目は, 件数や個数という尺度を採用



自己分析のレーダーチャート



自己分析の活用

- (1) 学科教員の定員配分に配慮
⇒ 若手教員の教授昇格

付随する活躍の方策

- (2) 若手教員にその能力を発揮させるための配慮
⇒ 学部・学科の運営に係わる委員会委員免除
方策の導入(特命教員制度の創設)

+ α : 現場とのコミュニケーション
⇒ 若手教員との意見交換



自己分析、特命教員制度の成果

平成16年度

- ・ 教授籍配分の学科では、自己分析で予想した人材を教授に昇格
- ・ 特命教員に指名(合計4名指名)
- ・ 研究プロジェクト立ち上げ

平成18年度

- ・ 文部科学大臣表彰

平成21年度

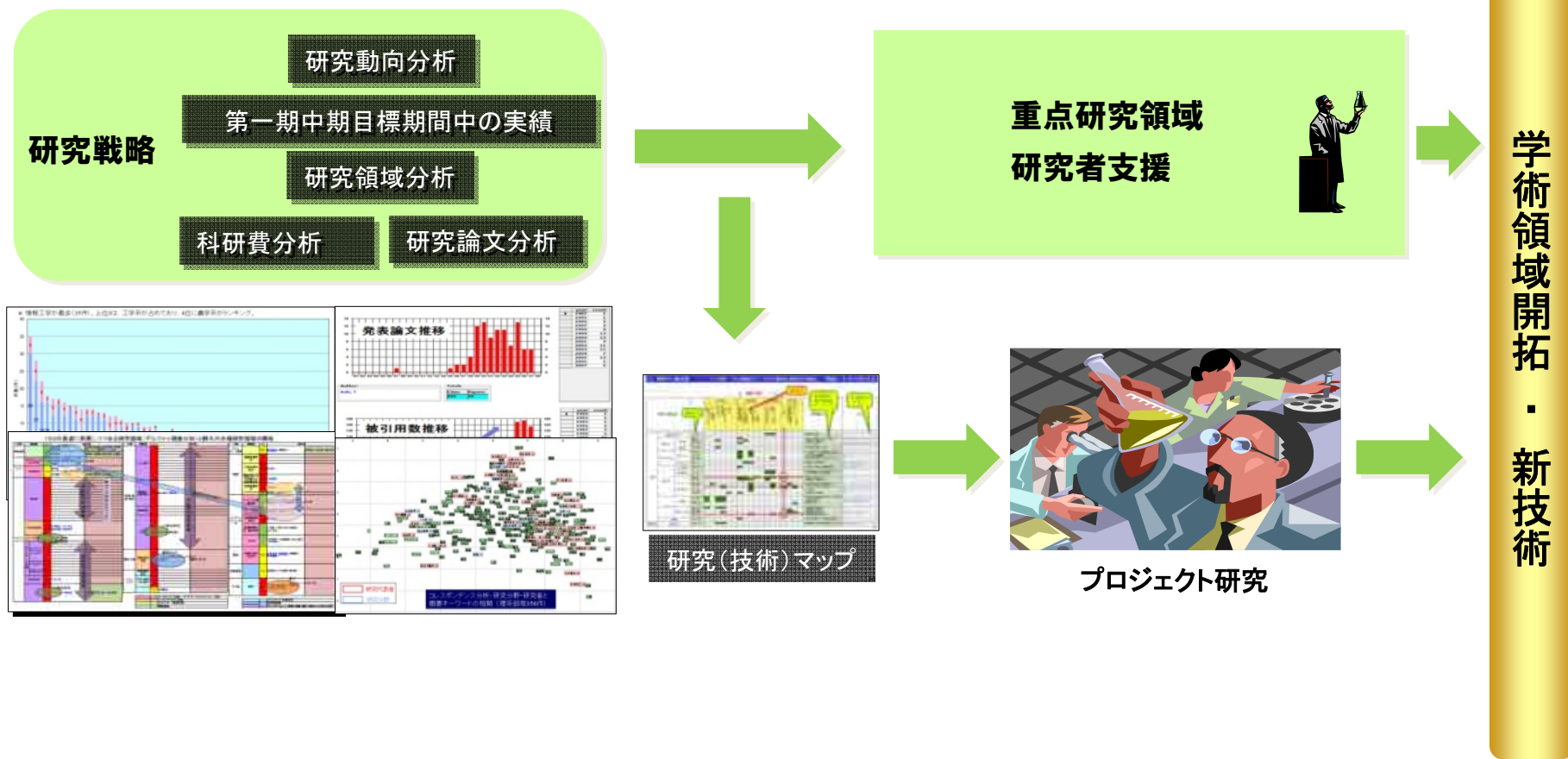
- ・ 戦略的創造推進事業 新規採択研究代表者
(特命教員に指名したほかの教員が文部科学大臣表彰)

全学への適用には限界あり



これからの研究マネジメント

— Σ 個人評価 = 組織評価からの転換 —





研究活動状況の把握

研究の組織的取組みを加速させるために

- 1) 第一期中期計画期間における実績(SWOT)、研究動向、研究領域、科研費、研究論文の分析・評価
- 2) 基盤研究(入口)から応用研究(出口)までをフォロー

— イノベーション共同研究センター —

- 事務スタッフだけでなく、研究者、技術者がいる組織であることから、研究動向の収集、外部資金の獲得状況など、分析能力をもつ
- 産学連携視点で分野別に研究者の研究内容と活動状況を把握
- 競争的資金獲得申請の支援(申請者探し、申請内容チェックなど)を実施している



— イノベーション共同研究センター(シンクタンク機能)活用 —

○ 外部資金からみえたこと

▪ 外部資金(科研費以外)

大型の外部資金獲得者が限られている

コーディネータが重要(共同研究約70%、受託研究約60%)

⇒ 知的クラスター創成事業(成果が顕著)

▪ 科研費

教員の育成システム(講座制のようなグループ)の崩壊

自由な発想の研究と目的型研究の区別の欠如

○ これから重要となる研究分野について

▪ 研究分野によっては、人数が少なく、脆弱(人事)

153の急速に発展しつつある研究領域(デルファイ調査付加)

分野	領域群	領域	
情報通信			
エレクトロニクス	次世代エレクトロニクス研究		
	光科学研究		
ライフサイエンス	脳科学		
	生体計測技術		
	ナノバイオロジー		
	ポストゲノム研究	ゲノム・バイオインフォマティクス	
		プロテオミクス	
		メタボロミクス	
	再生医科学		

分野	領域群	領域
保健・医療・福祉	がん研究	
	感染症・免疫研究	
肥満研究		
農林水産	その他	
農林水産	植物科学研究	
フロンティア	惑星探査研究	
	宇宙と素粒子の研究	

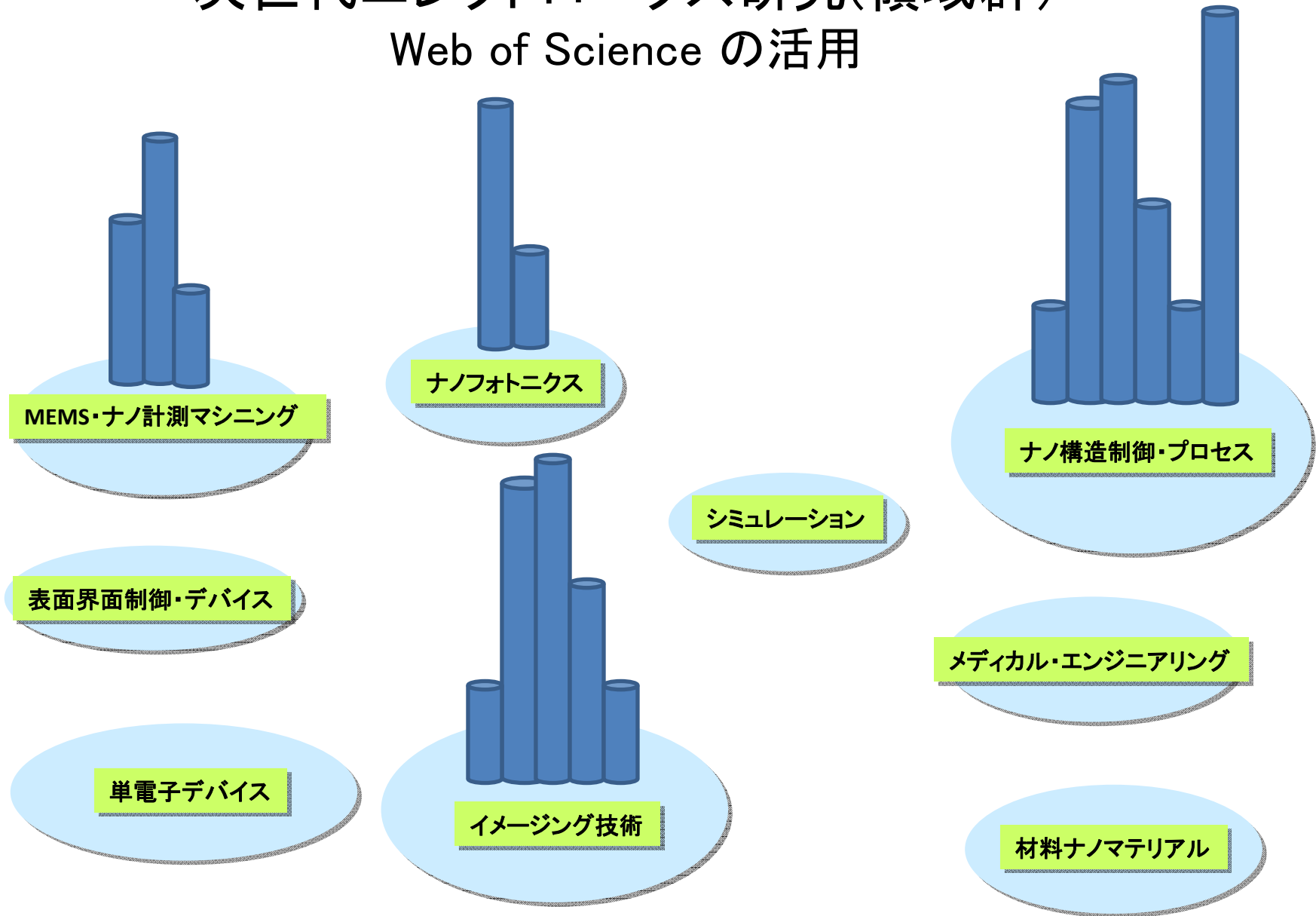
	ナノものづくり技術 ナノテク/オプトロニクス/材料
	バイオメディカル技術
	エネルギー・環境技術
	情報通信

分野	領域群	領域
エネルギー・資源		
環境	機構変動研究	
	生物多様性研究	
	環境汚染・化学物質の生物影響研究	
	炭素循環研究	
ナノテクノロジー・材料	ナノレベル構造制御	
	ナノレベル計測・シミュレーション	
	強相関物質研究	
	新規物質材料創成研究	
	その他	
製造	有機合成反応研究	
産業基盤		
その他	数学	

	フロンティア・数理応用
	新産業基盤
	ライフサイエンス・医療・保健・福祉

次世代エレクトロニクス研究(領域群)

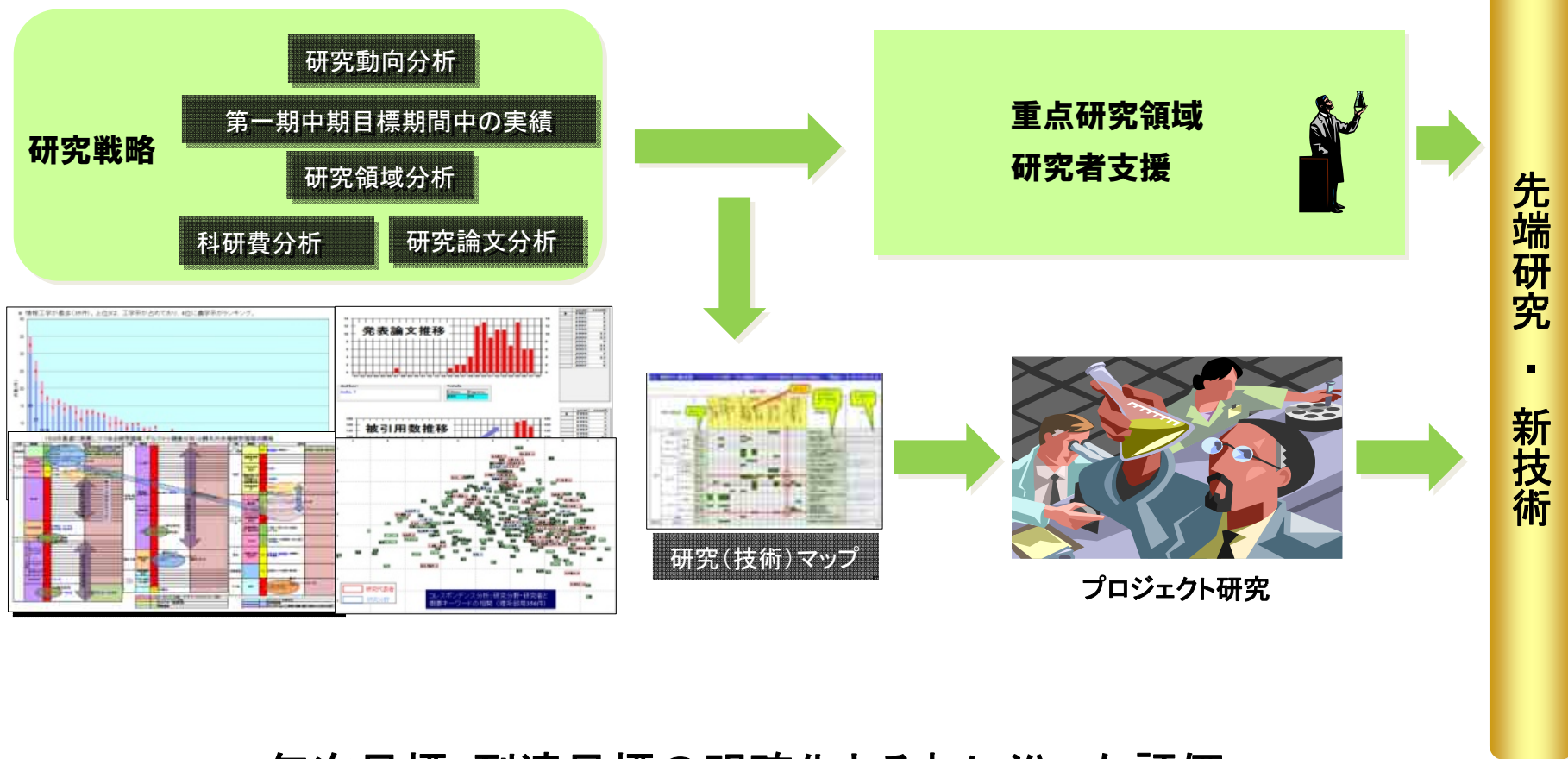
Web of Science の活用





これからの研究マネジメント

— Σ 個人評価 = 組織評価からの転換 —



年次目標・到達目標の明確化とそれに沿った評価



— 人財中心へ — (第二期中期目標・計画に反映)

短期戦略

- (1) 学内優れた人財の発掘
 - ⇒ シンクタンク機能を持つ組織の活用
- (2) 人財の育成
 - ⇒ 研究時間の確保(役割分担、インセンティブ)
- (3) 重点プロジェクトの推進
 - ⇒ リーダー指名による組織的取組み

長期戦略 (テニユア・トラック制度の拡大)

- (4) 国際公募による人財の採用・育成



ご静聴ありがとうございました。